令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果まとめ　1

４月 18 日（木）に行われた「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学６年生を対象に、「国語」「算数」の学習状況と児童の学校や家庭での生活実態についての調査が実施されました。本校の国語は全国平均を上回り、算数は全国平均とほぼ同じ結果となっています。調査については、児童の学力の一部分ではありますが、結果を基に本校の現状と課題を分析してまとめましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたします。

国語科　　〇概ね着いている力

・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。
・情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができる。
・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。

▲これから着けたい力

・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
・文の中における主語と述語との関係を捉える。
・人物や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【指導にあたって】

➡ 事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られたため、**記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫していく。**

➡文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを確認したりできるようにする。（記録、要約、説明、論述）
➡協働的な学びの中で、児童自身が主体的に学習を進めることができるようにするために、書き表し方の工夫について話し合う場面を設定することも考えられる。（話し合い）
➡伝えたいことがより明確に書き表せるようにするために、教師が観点を明確に示し、児童が書いた文章を自身で読み返したり、友達と確かめ合ったりするように促す。
➡事実や考えとして記述したそれぞれの文の主語を確かめ、何について書いているかをはっきりさせるよう促す。

算数科　　〇概ね着いている力

・数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。
・直方体の見取り図について理解し、かくことができる。
・除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。

▲これから着けたい力

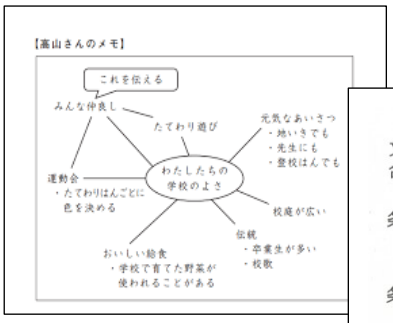
・球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。
・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
・示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。
・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。

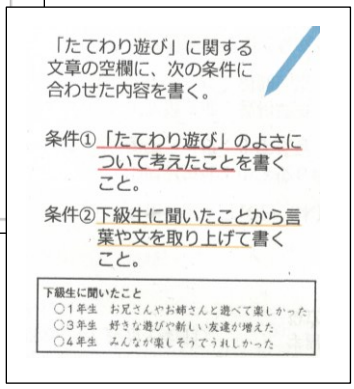
【指導にあたって】

➡ 図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られたため、**日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能**を習得するようにする。
また、データの活用については、**データを言葉と数を使って表現する力**を身に付けさせるようにする。

➡ 球の直径とその測り方について振り返り、直方体の体積を求めるために必要な長さと球の直径の長さが関係していることに気付き、球の直径の長さを用いて直方体の辺の長さを見いだすことができるようにする。
➡ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量を比較する際に、場面に応じて処理の仕方を考えることができるようにする。
➡ 求めた速さが妥当かどうかを判断して、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるようにする。

分析と今後の指導について　～設問から～





【国語科】

分析結果と課題

右の図を見て解く設問では、下級生から聞いたこと（事実）を取り上げて、たてわり遊びのよさについて、事実と自分の考え（感想・意見）に区別して書くことが求められていた。しかし、「事実」のみを書き、「たてわり遊び」のよさについて「自分の考え」を書いていない児童が多くみられた。

指導にあたって

取り上げた「事実」が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、「事実」と「考え」との関係を明確にできるようにする必要がある。その際、内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを 確かめたり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して 書いていないかを確かめたりする場面を設定することも大切である。

「事実」あるいは「考え」のどちらかが不足している場合は、「伝えたいこと」を支える「事実」としてふさわしいものが取りあげられているか、または「事実」を裏付けるためどのように考え、伝えたいかについて確認ができるよう、児童同士で書いた文を読み合うなど、「伝えたいこと」を交流しながら確かめ合う場面を設定することも効果的であると考える。

（例）

事実:「一日当たり1時間から2時間の家庭学習をしていたのはクラスの 39%でした。」

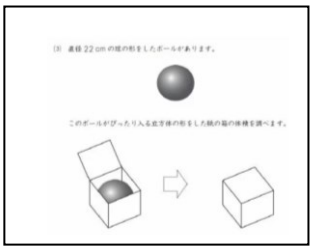
感想:「この結果は予想外で、もっと少ないと感じていました。」

意見:「この家庭での学習時間は、宿題の量に改善の余地があることを示していると思います。」

こうした区別を意識することで、読み手にとって分かりやすく説得力のある文章を書くことができる。

【算数科】

分析結果と課題

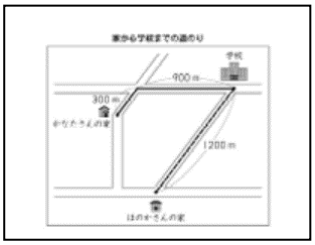


右の設問では、球の直径の長さと立体の一辺の長さの関係を捉え、立体の体積の求め方の式を書く問題だが、「□×3.14」のように球の直径の長さと円周率から体積を求めることができると誤った捉え方の児童が多くみられた。

指導にあたって

身の回りの形から図形を捉え、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。例えば、ボールがぴったり入る紙の箱の体積を調べる活動が考えられる。

分析結果と課題



右の設問では、家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書くという二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考えることに課題がみられた。

指導にあたって

指導にあたっては、時間と速さにはどのような関係があるかについて、図や言葉、式などを用いて自分で考える時間をつくる。友だちの考えをパソコンの共有ページで見合って、自分の考えと比べながら、全体で発表しあい、様々な考えに気づかせるような活動をする。また、例えば、野球の投手が投げるボールの速さや、校区の地図などを活用して道のりや時間を調べるなど、速さが身近になるような活動も取り入れていきたい。

国語科・算数科とも基礎学力は定着している。
・国語は全国平均・県平均を上回っている。
・算数は全国平均・県平均とほぼ同じである。

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」　・・・92%
「一日当たり1時間から2時間　家庭学習をしている」
月～金:39%　　土日:31%

「学習の内容がよくわかる」
国語:100%　算数:83%

学力調査　課題に対するまとめ

【国語科】
◎学習指導要領の内容の「知識及び技能」の「情報の扱いに関する事項」はよくできている。
　しかし、目的や意図に応じて、「事実」と「意見」とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がみられた。
　児童の質問紙から、例えば「5 年生までの学習の中で、タブレットなど ICT 機器を活用して自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができるか」に 100%がそう思うと肯定的に答えている。また、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いているか」も 100%そう思うと同様である。ただし、「新聞はほとんど読まない」が 92%である。
　このことから、Chromebook を活用して、日ごろから図や表などを入れながら、スライドや Canva（キャンバ）にまとめてプレゼンテーションをしたり、授業の最後にふりかえりを自分の言葉でまとめたりするなどの力は定着しつつある。
　さらに、「書くこと」の「思考力、判断力、表現力」を深めるために、「すきま読書」の時間を活用しながら、教科書の説明文や新聞の論説文などのプロの優れた文章に触れる機会をもち、インプットする。「事実」と「考え」を明確に区別して書くために、例えば、日常生活に関わるようなテーマを設定して、着目する「事実」と伝えたい「考え」を個別で整理して記述する。次に全体で何人かの記述からどのようにすればわかりやすく伝えることができるか、共有したり、話し合ったりする場面を設定してアウトプットすることが効果的であると考える。

【算数科】
◎学習指導要領の内容の「知識及び技能」、「数と計算」に関する領域はおおむねできている。
　しかし、異なる二つの数量の関係に着目し、場面に応じて数量の比べ方を考えることに課題がみられた。
　児童の質問紙から、例えば「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」や「学習したことを今後の学習で活用しようとしているか」に 100%そう思うと肯定的に答えている。また、「学習したことを普段の生活の中に活用できないかを考えているか」では 92%がそう思うと回答し、児童の意識は高い。
　このことから、さらに、児童の意識と深い理解を伴う知識の習得やその活用に結びつけていくために、日常生活を絡めながら、知識・技能を習得するように工夫をする。また、データの活用については、データを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせるようにしたい。例えば、円の直径と立方体の一辺の長さが同じであることを確認して、体積の求め方を考える場面を図や言葉を使って文で説明する協同探究の場を設定する。デジタル教材などで図形を重ね合わせると空間認知しやすいことから、デジタル教材を有効に活用していきたい。
　「算数の指導では、『操作活動』として実際に具体物を**手で動かして考える**手作業に近い『具体的操作』と、頭の中に対象とする事柄のイメージを思い描いて、内面的に思考する『念頭操作』に分けることができる」といわれている。これからも、発達段階に応じて廊下の長さなどの実物を測ったり、数図ブロックを使って式を考えたりする活動を積極的に取り入れていく。 そして、「数や計算」などの基礎基本の習得だけに留まることなく、私たちの生活にどのように関係しているかが発見でき、子どもたちが「できた」から「わかった」の理解につなげてやる気の原動力となるような授業改善をしていきたい。